

公民館による ソーシャル・キャピタルの強化に関する 実証的研究

研究代表者 村田和子（地域連携・生涯学習センター）

研究の目的

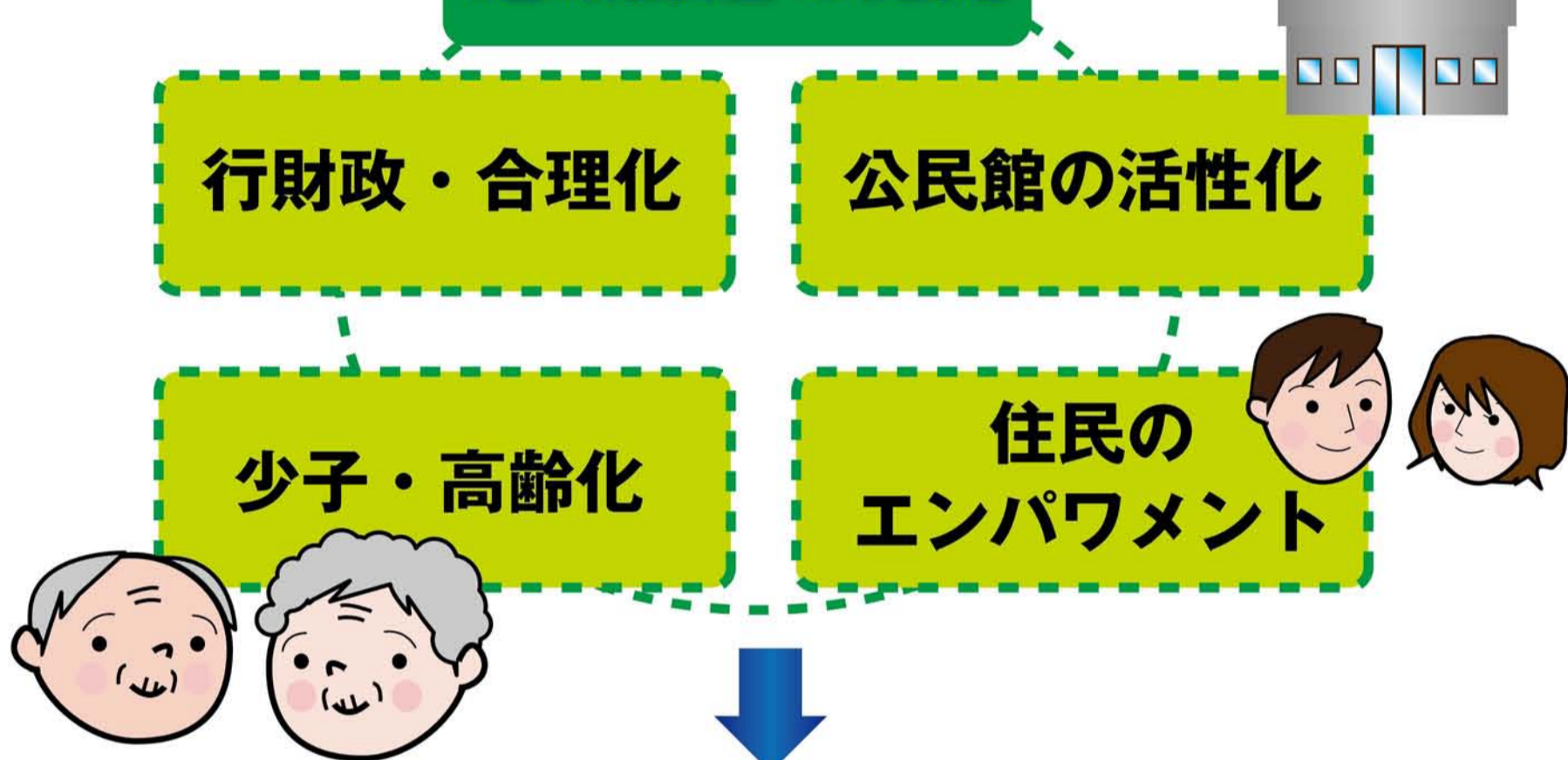
公民館とソーシャル・キャピタルとの関連 これからの公民館の役割を明らかにする

3.11以降、改めて地域の支え合い、助け合いの地域コミュニティの重要性やソーシャル・キャピタルに着目。
全国に公民館は、15,400館存在（平成23年度社会教育調査）



地域コミュニティの構築が重要

地域課題の発見



海南市におけるアクション・リサーチ

海南市は、小学校区に公民館を設置。
高齢化率 30.4%



貢献

ソーシャルキャピタルの強化
人が育ちあう地域へ



地域に支えられる大学

地域を支える「しかけ」と「しくみ」
4つのステージでの事業

実施概要

主としてR・パットナムのSCの定義を援用。

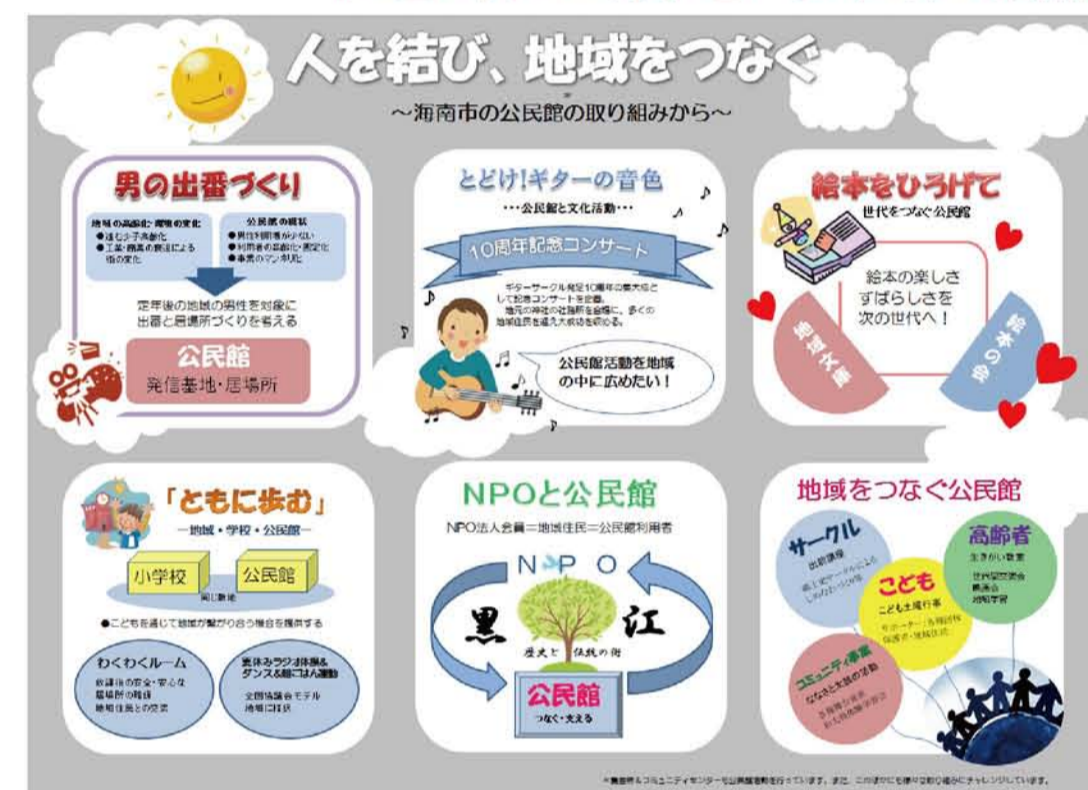
プロジェクトチームを組織

和歌山大学・海南市教育委員会・海南市市立公民館等

連携・協働関係を構築しつつ、調査・研究

成果

- ・「下津町公民館」活動の存在の発見
- ・公民館職員のエンパワメント
- ・テキスト『地域に生きる公民館』の発行



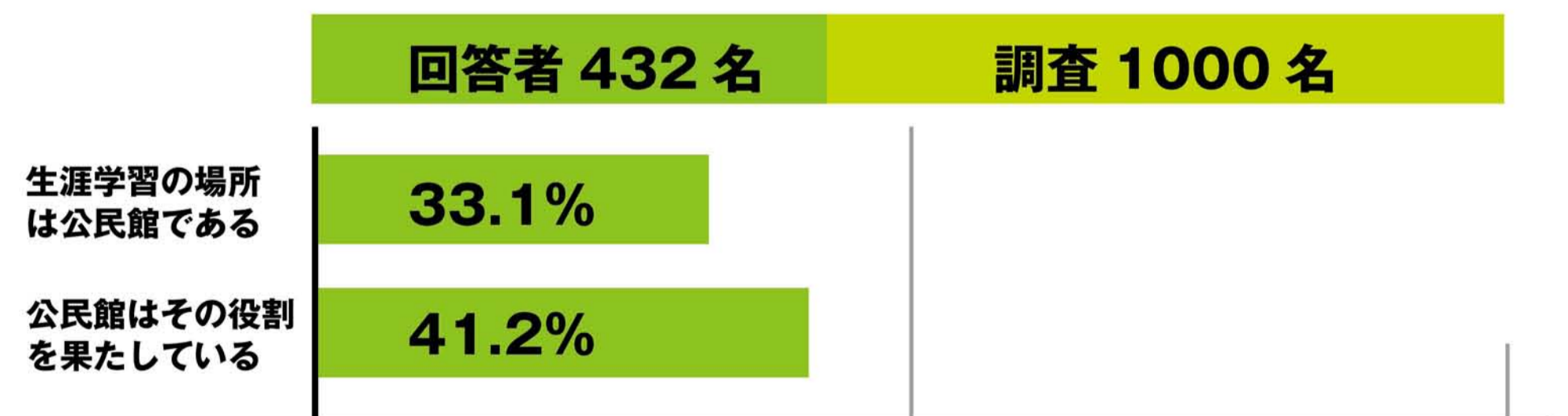
←プログラム実行により、公民館主事が作成したテキスト『地域に生きる公民館』

【4つのステージ】

■ 第1ステージ

地域を知る（歴史・現状把握のためのアンケート及びヒヤリング調査）

- アンケート調査**
- ・生涯学習市民アンケート
 - ・地域のつながり力に関するアンケート
- アンケート回収率 43.2%（20歳以上の市民）



50%



導き出された現状

生涯学習情報の不足
公民館は数居が高いもの

100%

- ヒヤリング調査**・「下津町公民館」活動の存在の発見
・海南市公民館の訪問・ヒヤリング調査



生涯学習推進計画
今後の施設設備計画へと反映

SCの形成と公民館

・事例／北野上公民館と地域
～ななさとコミュニティ～

【ななさとコミュニティ】

連合自治会・公民館の呼びかけで閉園した「ななさと保育所」の有効利用について協議。地域の17団体が相互に連携し、「楽しくて安心してらせる北野上をめざして」地域の発展に尽力しあうことを目的に発足

■ボランティア「菜の花」による園児との交流事業



きらら子ども園の5歳児を迎え入れ、燻炭で焼き芋



芋が焼けるまでの間、レクリエーション

- ①保育所の閉園による地域の危機意識の高まり
- ②台風12号災害による地域の防災力、となり近所との身近な人間関係の再構築
- ③定年退職後（団塊世代）の地域デビューによる新たな地域づくり
- ④クロスコミュニケーション「世代をつなぐ」公民館への期待
- ⑤地域づくりの核となる公民館

北野上公民館の関わり方

「その場に加わり、共に交わり」
「その中からメンバーが発する言葉に耳を傾け」
「公民館としてできることがあれば、やるよというような構え方」

地域コミュニティと公民館との橋渡しとなる
キーパーソンの役割の職員の不可欠性

■第2ステージ

新しい公共と地域の未来
(人材養成プログラム)の実施

地域の課題解決に向けてのキーパーソンの育成



「新しい公共」プログラム



内海地区「男の出番事業」

海南市教育委員会
×
海南市市立内海公民館

プロジェクトチームを組織

●定年後の地域の男性を対象に

「出番と居場所づくり」を考える

■モデル事業

内海小学校マラソン大会見守り応援ボランティア



公民館が地域の男性の出番づくりの「発信基地」となり、打ち合わせ、会合の場として利用することにより、交流の居場所となっていくきっかけを作る。

内海公民館自主サークル「男の出番」として定着

公民館職員・住民がエンパワーメントのプロセス
(意識と行動の変容)について明らかに
成人教育のプログラムにおける新たな手法の開発。
自治体職員研修などにも汎用の可能性

■第3ステージ

「公民館」の将来像を描く

1. 地域課題を検証し、集約する。前ステージの検証
2. 公民館の関わりを学びあい、提案する
3. 公民館事業を「評価」するための手法の開発
4. 公民館ごとの地域まちづくりビジョンの策定

海南市生涯学習推進計画への参画を通して実現

■第4ステージ

調査研究のまとめと分析、成果の公表

1. 第3ステージまでをワーキンググループで総括・検証し、「公民館による地域活性化」の10年先を目標化し、実践課題化していく作業
⇒海南市生涯学習推進計画の策定
2. 学習教材の作成
⇒「地域に生きる公民館」として作成・発行
3. 研究プロジェクトチームの2年間の意識・行動調査

成果・効果、今後の発展性

- ①地域社会のかかえる問題について、住民が学びつつ、実践し、解決に取り組む方法を地域住民・公民館職員等が獲得することによって、地域のソーシャル・キャピタルを醸成することにつながった。
- ②事業のプロセスを通して、公民館及び地域の諸団体が学習方法の開発や手法を身につけ、既存事業の改善につながった。
- ③公民館職員及び行政職員がネットワーク形成をマネジメントする力を培うことに貢献できた。
- ④公民館による地域活性化の「実践プログラム」をまとめるとともに、地域の課題解決と活性化を推進する。
- ⑤これらの取り組みをとおして、その成果をひろく市内外に普及し、各地域・市町村の取り組みをさらに充実活性化する。